



史上最凶のラジニカーント降臨
タイガーの号令に馳せ参じよ!

2023年タミル語映画
世界興収第1位!

JAILER

ジェイラー

凶悪な犯罪者集団との戦いの中で
息子を探す元看守〈ジェイラー〉が助けを求めたのは
最強の盟友たちだった

ラジニカーント
モーハンラール シヴァラージクマール ジャッキー・シュロフ

監督・脚本:ネルソン・ディリープクマール 製作:サン・ピクチャーズ
原題:Jailer 2023年/インド/タミル語/168分 配給:SPACEBOX

KALANITHI MARAN PRESENTS SUPERSTAR RAJINIKANTH

ஜைலர்

WRITER - DIRECTOR NELSON ANIRUDH MUSICAL

DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY VIJAY KARTIK KANNAN EDITOR R. NIRMAL ART ORK KIRAN ACTION STUN SIVA
COSTUME DESIGNERS PALLAVI SINGH MUTHUL HAFEEZ SOUND DESIGN SUREN G - S. ALAGI KOOZHAN AUDIOGRAPHY SUREN G COLORIST ANDREAS BRUECKL BILLIE PRIME FOCUS LTD VFX SUPERVISOR A JAY MAKEUP C. HARINATH
STILLS V. SITTRARASU PUBLICITY DESIGN KABILAN CHELLIAH PRO RIAZ K. AHMED PRODUCTION CONTROLLER D RAMESH KUCHIRAYAR EXECUTIVE PRODUCER RAJA SRIDHAR



巨大監獄の元看守(ジェイラー)が、インド各地に散らばった「舎弟」を従え凶悪な犯罪者集団に立ち向かう

『ムトゥ 踊るマハラジャ』(1995)により旋風を巻き起こし、日本での第一次インド映画ブームの立役者となったラジニカーント。その後も『チャンドラムキ 踊る! アメリカ帰りのゴーストバスター』(2005)、『ロボット2.0』(2018)など、数多くのヒット作が紹介されてきた。本作『ジェイラー』は、ラジニ主演作としては『ダルパール 復讐人』(2020)以来3年ぶりの日本での劇場公開になる。

2023年8月に全5言語バージョンが全世界の約7000のスクリーンで封切られた本作は、世界興収65億ルピー(約102億円)を記録し、同年公開のタミル語映画の1位となった。この数字は歴代のタミル語映画の興収としても第2位で、上回るのはラジニ自身の過去作『ロボット2.0』だけだ。

本作はラジニの169本目の出演作。公開時点で39歳だったネルソン・ディリーブクマール監督は、新世代の映像作家らしくさまざまな新機軸を展開し、史上最凶のラジニカーントを作り上げた。

STORY チェンナイに住む元警察官のムトゥ・パンディヤンは、妻、息子、その妻、幼い孫息子とともに静かな毎日を過ごしている。一人息子のアルジュンは、ムトゥに影響され警察官となり、正義感の強さは人一倍。そんなアルジュンをムトゥは誇りにしていた。しかしある日アルジュンは行方不明になってしまい、美術品マフィアを深追いしすぎて消されたのと噂される。自分がアルジュンに行った厳格な教育が彼を死に至らしめたのかと良心の呵責に苛まれるムトゥは、一民間人として独自に捜査を始める。ヴァルマという男が牛耳るその美術品マフィアとの戦いの中で、現役時代に荒れる刑務所を仕切って“タイガー”の名で怖れられていた刑務所長ムトゥの真の姿が明かされていく。

ラジニカーント

シヴァラージクマール モーハンラール ジャッキー・シュロフ
タマンナー ラムヤ・クリシュナ ヴィナーヤガン スニール ヨーギ・バーブ

監督・脚本:ネルソン・ディリーブクマール
撮影:ヴィジャイ・カールティク・カンナン 音楽:アニルド 編集:R・ニルマル

2023年/インド/タミル語/168分/原題: Jailer/日本語字幕翻訳:渡辺はな 字幕監修:小尾 淳
配給:SPACEBOX/宣伝:フルモデルモ

ホームページ

spaceboxjapan.jp/jailer



Xアカウント

[@spacebox_jp](https://twitter.com/spacebox_jp)

©SUN Pictures

2025年
2月21日(金)より

新宿ピカデリー ほか
にて全国順次公開

ムビチケ前売券
(オンライン)
1,600円(税込)発売中!
※オンライン券のみのお発売となります。

オトクなデジタル映画鑑賞券

